



# ISHINOMAKI LOCAL VENTURE

2018

石巻ローカルベンチャー白書



## ローカルベンチャーが切り開く石巻の未来

ローカルベンチャーとは何か。

地域の資源を活かし、これまでなかった視点で地域に新たな経済を生み出し、ビジネスとして成長させていく。自社の利益の追求だけでなく、地域全体の価値の向上につなげていく。ローカルベンチャーとは、このような地域の暮らしを豊かにする存在です。

海や山、広大な平地と清らかな水資源、豊かな自然を有する石巻市では、それらの豊富な資源を活かしながらビジネスを生み出すローカルベンチャーが誕生しています。一方で2011年に東日本大震災を経て、まるで時計の針を先に進めてしまったかのように、地域が潜在的に抱えていた人口減少や高齢化など、社会的課題が否応なしに迫って来ている現実もあります。しかし、そうした社会的な課題さえも資源ととらえ、活躍しているローカルベンチャーもいます。水産業や

農業、観光など自然資源を活かしたビジネスだけではなく、福祉や医療といった社会包括の分野や伝統産業まで多岐にわたっているのが特長です。

生まれたのは、ゼロからスタートしたローカルベンチャーではありません。これまで地域で活躍していた企業も新たなマーケットを開拓したり、新しい技術でサービスや商品を生み出したり、誰も気付かなかった新しい価値を生み出しています。石巻はいま、そうした新たな挑戦のるつぼになっているとも言えます。

新しい道を切り拓きながら地域を豊かにしていくローカルベンチャーは、石巻の新しい未来を切り開いていく可能性のある存在です。そんなローカルベンチャーたちの活動を本誌では紹介してゆきます。

## 1

P.01

特別鼎談「地方だからこそ面白いことができる」

亀山紘(石巻市長) × 宮城治男(NPO法人ETIC,代表) × 松村豪太(コンソーシアム ハグクミ)

## 2

P.07

ローカルベンチャー紹介

P.07 株式会社 石巻工房

P.09 一般社団法人 りぶらす

P.11 株式会社 草新舎

P.13 一般社団法人 はまのね

## 3

P.17

石巻ローカルベンチャーリサーチ

## 4

P.27

サポートプログラム

コンソーシアム ハグクミ／石巻まちのコンシェルジュ／ウミネコキャラバン／石巻市地域おこし協力隊／ISSビジネスサポートセンター「I-Biz」／日本ロレアルランコム「Eyes for Future」プロジェクト／とりあえずやってみよう大学／YOSOMON!／石巻版松下村塾



# 特別鼎談「地方だからこそ面白い事ができる」

日本における社会起業支援の先駆者NPO法人ETIC、宮城治男氏と石巻市長亀山紘氏、石巻でローカルベンチャーを推進するコンソーシアム ハグクミ松村豪太氏がローカルベンチャーの可能性を語る。

1

**松村** 本日はどうぞよろしくお願いいたします。石巻市も参加しているローカルベンチャー推進協議会<sup>(1)</sup>、全国10自治体で2016年度に発足して、1年半が経過しましたね。

**亀山** はい。地方ではこれまで、仕事は「儲かる／儲からない」という尺度で決めるところが強く、仕事の意義は重要視されませんでした。そういったなかで、中心市街地は東日本大震災の前から商店街が年々衰退し

ていたんですね。そこに震災後、たくさんの若い人が入ってきて、新しい風を吹かせてくれました。さまざまな縁でローカルベンチャーを立ち上げ、今では数十団体以上が活躍しておられますので、我々もやはり仕事というものの価値観や、あるいはビジネスを起こすことの考え方の尺度を変えていかないといけないと思っています。

**宮城** ローカルベンチャーというのは一つのス

ローガンでもあり、コンセプトです。地域資源を活用して地域発の新しい事業を作り、その事業が成長し、雇用創出にも繋がっていくということだと捉えています。今まで、地方を新しく事業を立ち上げる場だと意識する人は多くありませんでした。地方というと、都会の生活に疲れた人や、家を継がなければならない人が仕方なく帰る場だとか、また地方での仕事も、選択肢が限られていると思われてきました。しかし、これからはむしろ、「地方だからこそ」面白いことができたり、応援してくれる人たちがいるから、「積極的に地方を選ぶ」という発想の転換ができるのではないかとと思っています。

## 外から見れば、街の弱みも強みに見える

**亀山** 「天地人」という言葉がありますが、石巻でいえば、「天」は自然豊かな地域、「地」は地元の資源、「人」は人材。この3つを活かしていくということ。日本三大漁場でもある石巻は、水産加工のまちではありますが、まだ活かしてない部分を活かし、次世代につながる人材育成をしたいと思っています。

**宮城** ローカルベンチャーは、若い世代が自分のやりたいことで新規創業するだけでなく、地元の中小企業の変革、いわば第二創業も大事だと考えています。今までの産業構造ではなかなか未来が見えない所に、新しい価値観で商品やサービスを開発して、直接消費者へ届けてゆくようなスタイルです。石巻の中心市街地は、古き良き街並みや地域の方々の絆が残っています。実はそこが石巻のローカルベンチャーの土壌になっているのではないかと思います。

ます。ハーバード大学ビジネススクールの学生さんが、石巻を6年連続で訪れていますが、学校の中で最大の人気で最長のプログラムなのだそうです。自覚できていなかった石巻の価値や、弱みだと思っていたところを、外の人が発見したのですね。

## 歩いて楽しめるローカルベンチャーのまちづくり

**亀山** 石巻の弱みという点では、「集積していない」ところもあるのかもしれませんが、例えば、「寿司の街・石巻」とは言いますが、街なか分散しているお寿司屋さんをマッピングできていない。そんななかで、石巻に若い方々がボランティアなどをきっかけに入り、ローカルベンチャーを立ち上げていることは、街なかの賑わいのある程度集中するという役割に繋がっていると思います。

**宮城** 「集積」というのはつまり、街の魅力が分かりやすく伝わることでですね。例えば、お寿司屋さん一つ一つの個性が発信されれば、足を運びたくなる魅力的な街になるかもしれません。また、歩いて楽しめる街の地図をつくると、すき間が見えてきます。「ここには店がない」とか、「元気がないこのあたりに、ちょっとテコ入れしたら流行るんじゃないか」とか。それを改善する資金や空き家・空き店舗の提供を市がサポートして、ローカルベンチャーの活躍の場をつくと面白そうです。2005年にハリケーン・カトリーナで被害を受けたアメリカのニューオーリンズでも、空き店舗や空き地を役所が管理し、新しい担い手のチャレンジの場として提供した政策が

上手くいきました。

**亀山** それはいいですね。歩いてもらう工夫。歩いて魅力を感じられるまちづくりは、いい。まちづくりのコンセプトをしっかりと市民に伝え、「そのためにここに店が欲しいんだ」と呼びかけて、ローカルベンチャーに入っていただくのは、とても面白い考えですね。私はまちづくりについては3つのキーワードを掲げています。クリエイティブとコミュニティ、そしてコンパクト。できるだけ歩いて暮らせる、歩いてもらえるようなまちづくりを、ぜひ進めたいと思っています。

## 新しい尺度をもった「なぞベン」が石巻を変える

**松村** ローカルベンチャーは、まちづくりにも活かされるということも鍵だと思っています。自分の会社だけが儲かればいいというのではなく、街全体が幸せになるという考え方も、ローカルベンチャーの要素ですね。とはいえ、持続可能であるためにはどうしたら良いと考えますか？

**宮城** 20世紀の資本主義の時代、効率化が重視され、結果的にまちが面白くなっていったという経緯がありました。稼げることは望ましいですが、一方で、石巻では

**宮城 治男**  
NPO法人ETIC、代表



**亀山 紘**  
石巻市長



**松村 豪太**  
コンソーシアム ハグクミ



「なぞベン<sup>(2)</sup>」と呼べるような、全く違う尺度で街を楽しむ若者たちが出てきていますね。彼らは、どうやって稼いでいるかという点では「なぞ」ですが、楽しそうに生きているベンチャーです。シェアハウスなどに住み、本業はアートだったり、農作業や水産のお手伝いをしたり、夜はバーで働いたりしています。その生き方に憧れて、若者が都会からやってくるという循環さえ起きています。従来の資本主義的な価値からすれば不可解な動機や背景で生きているんですね。私からすると、アーティストの小林武史<sup>(3)</sup>さんも、ある意味で従来とは異なる価値の尺度を持っています。リボンアート・フェスティバルを石巻で開催したのも、単に被災地の中で中心的な場所であるという理由だけではなく、石巻の哲学や生き様みたいなところに惹かれたのではないかと思います。

**亀山** 生き甲斐を持ち、「儲かる/儲からない」の尺度を越えたところで仕事をするということは分かります。私も若い頃から化学に没頭していて、寝ることも食べることも忘れて入れ込んでおりました。ただ、行政としてはやっぱり心配をしてしまうんです(笑)。食べていけないのではないのかと。好きなことに対して没頭しながらも、食べていける生業を立てることも、やはり重要視しなければいけませんね。ボランティア活動支援なども含め、検討委員会をつくって



議論をしていきたいと思います。

**尺度の違う石巻の風土がブランドとして価値を上げる**

**宮城** 「なぞベン」は道なき道を進みますから、経済性はなくともブランド価値が生まれることがあります。例えばフィッシャーマンジャパン<sup>(4)</sup>が考えた漁師によるモーニングコールサービスは、そんな石巻の尺度の違う風土から生まれた典型的なもので、漁師の印象を変えましたね。あえて石巻はそういったことをやる。そういう存在を役所として応援していくことができれば、ローカルベンチャーのひとつのスタイルになるのではないかと思いますね。

**亀山** フィッシャーマンジャパンはすごいですね。これまで漁師の格好良さを売り出すという感覚はありませんでしたから、斬新で素晴らしい取り組みです。

**松村** コンソーシアム ハグクミとして、そういった面白いアイデアをどのように応援していくのがよいでしょうか？

**宮城** 地方に必要な人材のマッチングと育成という面で、NPO法人ETICでは、震災直後から「右腕プログラム」として、被災地で活動する団体の代表者の「右腕」となる人材を送り出し、石巻には最大規模の50名以上が入りました。例えば、「愛さんさん宅食<sup>(5)</sup>」の小尾さんや「りぶらす」(→P.09)の橋本さんは、「右腕」としてやってきて、石巻で起業し、さらに「右腕」を受け入れています。最近では、優秀な人材を地方の中小企業に送り出す「YOSOMON!」(→P.30)という仕組みも

つくりました。現在、人材募集している「今野梱包<sup>(6)</sup>」さんは、地元の子どもたちに夢を与え、段ボールの新しい可能性を追求するという、経済的にも社会的にも価値あるローカルベンチャーです。だからこそ、社長の右腕として働きたいという人材が集まるのではないかと思います。

**松村** ベンチャーの支援という面では、ISS(石巻産業創造)(→P.29)さんなど、市内ですでに起業家支援を実践している団体との連携も大切ですね。

**亀山** はい。市としても外部委託も進めていきますし、多くの関連団体の皆様にも、社会貢献、インパクトを出すための支援をしていただければと思っています。

**松村** 石巻市とコンソーシアム ハグクミによるローカルベンチャー支援や、市内で活躍中の担い手についても、もっと情報発信していきたいと思っています。

**ローカルベンチャーを担う人の可能性に賭けたい**

**亀山** 一堂に介してシンポジウムをしたいですね。国際シンポジウムとして開くのもいいと思います。私は、人の可能性を信じています。震災以降、多くの地元の方、ボランティアの方々にまちづくりに関わっていただきました。その方が事業を立ち上げて、可能性に向かっていきます。地方創生に大事なのは人材。人の可能性に賭けたいと思っています。

**宮城** 新規の事業があること。そして中小企業がローカルベンチャー化するという流れがあ

ること。そこに「なぞベン」というキレのある存在という、幅広いコンセプトを持ってローカルベンチャーを掲げる。さらに住環境の整備などの側面支援で行政も積極的に関わり、地元金融機関などと連携してバックアップしてゆくという全体像を、石巻市とコンソーシアム ハグクミとで描くことで、石巻市はローカルベンチャーのモデル自治体となるのではないかと思います。

**松村** 復興という文脈では、中心市街地だけでなく、雄勝、北上、牡鹿など中山間地域の動きもありますね。北上地区では、「WE ARE ONE 北上」<sup>(7)</sup>や、「イシノマキ・ファーム」<sup>(8)</sup>のような動きもありますね。



**亀山** はい、そうです。北上では4団体が立ち上がり、まちづくりに協力していただいています。まだまだ立ち上がるのではないかと思います。自然豊かな牡鹿半島を中心に行った「リボンアート・フェスティバル」は、そのきっかけにもなったと思います。

**宮城** ローカルベンチャーは中山間地域とも相性が良く、全国的に中山間地域が好きな若者がローカルベンチャーを多く生み出しています。意志をもって情報発信することで、石巻市は、ローカルベンチャーだけでなく、復興や中山間地域のモデルにも、なっていけるという可能性を感じました。

**【用語解説】**

**(1) ローカルベンチャー推進協議会**

ローカルベンチャーの輩出・育成を目指し国内10自治体が参画。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手呼び込み、事業成長を支援している。石巻市も参加自治体のひとつ。

**(2) なぞベン**

謎のベンチャーの略語であり造語。震災後、石巻に自然発生的に生まれた、一見するとどうやって生計を立てているのかわからない若者＝ベンチャーたちのこと。独自の価値観でDIY精神を尊重し、クリエイティブなまちの空気をつくっている。

**(3) 小林武史**

山形県生まれ。Mr.Childrenやサザンオールスターズ、レミオロメンなど人気バンドのプロデュースを手掛け、作曲家、編曲家、ミュージシャンとしても活動。「apバンク」代表理事。石巻市で開催された総合芸術祭「リボンアート・フェスティバル2017」実行委員長。

**(4) フィッシャーマンジャパン**

漁業をカッコよくをコンセプトに集まった東北の若手漁師集団。現役漁師さんが、モーニングコールしてくれるサービス「FISHERMAN CALL」を2017年に期間限定で実施した。

**(5) 愛さんさん宅食**

愛さんさん宅食株式会社。宮城県塩釜市と石巻市に事業所を構える高齢者向け配食サービス。代表取締役の小尾勝吉氏は神奈川県出身。2017年に高齢福祉と障害福祉が一つ屋根の下にある日本初の共生型施設「愛さんさんビレッジ」をスタート。

**(6) 今野梱包**

1973年創業。強化段ボールを導入し、梱包材にとらわれず、幅広い商品の開発に取り組んでいる。

**(7)WE ARE ONE 北上**

石巻市北上町地域で「コミュニティ・なりわい・集落」これら3つの再生を目指し、あたりまえの暮らしがふつうにある地域や、その担い手に良い仕事を生み出すことを目標に掲げる。生活支援の仕組みづくりや、ヒトとヒトとのつながりを支え、将来的に地域住民の日々の暮らしと健康を守る。

**(8) イシノマキ・ファーム**

地域のチカラ×農業のチカラを通じた雇用の創出を目指し、仮設住宅や復興公営住宅の住民と、不登校やひきこもりの若者が参加し、農業生産と販売をおこなう。6次化による商品開発、オーガニックホップの栽培とブルワリー、クラフトビール作りにもチャレンジしている。

**亀山紘**

1942年石巻市生まれ。1966年神奈川大学工学部卒業。高校の教諭を経て、1987年から東北大学工学部講師。1993年に石巻専修大学教授。2009年に石巻市長就任。2017年に再選(3期目)。研究者出身で化学・環境・エネルギー分野に精通している。

**宮城治男**

1972年徳島県生まれ。1993年、早稲田大学在学中に、学生起業家の全国ネットワーク「ETIC.学生アントレプレナー連絡会議」を創設。2000年にNPO法人化、代表理事に就任する。ETIC.は若い世代における「起業家型リーダー」の育成に取り組み、800名を超える起業家を輩出している。

**松村豪太**

1974年石巻市生まれ。東北大学大学院修了。法学修士。一般社団法人ISHINOMAKI2.0代表理事。リボンアートフェスティバル実行委員会事務局長。2016年よりコンソーシアム ハグクミとして移住・定住の促進、ローカルベンチャー、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。

この鼎談は2017年12月に収録されたものです。





AA 40 立脚



# 2

## ローカルベンチャー紹介

石巻で活躍するローカルベンチャーを訪問し、そのスタートのきっかけやこれからの展望を聞きました。



水産加工品の工場が立ち並ぶ渡波地区に石巻工房は位置する。

### ① 株式会社 石巻工房

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字栄田164-3  
電話 0225-25-4839  
www.ishinomaki-lab.org

活動拠点：石巻市渡波字栄田  
社員数： 9名  
創業年： 2011年

## 石巻から世界へ、 DIYの発想からつくる家具。

石巻工房は2011年に誕生した家具ブランドだ。東日本大震災直後にスタートをきった石巻工房だが、今ではロンドンやニューヨークの雑貨店でもプロダクトが扱われる。



シンプルで力強いデザインの石巻工房の家具は屋外使用もできる。



材料は耐候性に優れ丈夫なレッドシダーを使うことが多い。

設立のきっかけは、東京で建築設計事務所を主宰する芦沢啓治さんが自身が設計したレストランの被災した状況を確認しに、石巻に駆けつけたことがはじまりだった。そこで芦沢さんは自ら被災しながらもたくましく自力で店舗をDIYで直して再建する商店街の店主と出会う。そこで誰もが使える小さな市民工房が街にあってそこに道具が揃い、ものづくりの方法を伝えていけば復興のスピードが上がるのではないかという仮説が生まれ、石巻工房のはじまりになった。言うなれば被災地に魚を送るのではなく“魚の釣り方”を教えるということだ。その後、企業のボランティアの力を借りながら、仮設住宅やイベントで家具の作り方を教えてまわった。そこで開発した家具が反響を呼び、買いたいという声に合わせて石巻内外で販売したことがはじまりだった。

工房長でもあり同社共同代表の千葉隆博さんは、元鯔職人でありながら、日曜大工などを器用にこなす趣味人だった。たまたまボランティアとして手伝っていたイベントで、そんな千葉さんのスキルが芦沢さんにより見い出され、工房長に抜擢された。石巻工房が生み出す家具のコンセプトはDIY。ものの作られ方や仕組みが一目でわか

るシンプルで力強い家具で、屋外などハードな使用にも耐えられるのが特徴だ。DIYとはDo it yourselfつまり自分自身の力でやってみようという運動だ。第二次世界大戦でボロボロに荒廃したイギリスからはじまったDIYは市民のちからを取り戻す復興運動だった。石巻から発信するメッセージとしてはまさにうってつけのテーマだ。

創業して、これまで何回かフェーズの変化があった。震災の影響で全国から発注がある商品であったが、2013年頃から商品に対するクレームが入るようになった。復興や支援という名目で商品を購入していたフェーズが終わり、純粋に商品として購入する時期になった。こうした変化を千葉さんは「ようやくプロダクトとして正当に評価されるようになった」と前向きに捉える。価格の改訂を終え、十分な質の家具を生み出す流れも生まれてきた。新たなブランドをつくらうという意識は強い。近年のDIYブームの一役を担っているという自負もある。

次の目標はDIYの精神を石巻から発信するだけでなく「Made in local」という動きを考えている。石巻で家具を生産し売るというだけではなく、世界各地で現地の職人や技術と協力しながら

ら家具を生み出していく。家具を石巻で作って販売するだけではその生産能力に限界があるが、各地で工房の家具を作っていく。シンプルな石巻工房の家具だからこそできる戦略でもある。その結果、世界各地に石巻工房の精神が宿った家具が発信されていくという。壮大な石巻工房の展望に今後も目が離せない。



製作される家具のひとつひとつにロゴマークの焼印が押される。



工房長の千葉隆博さんは石巻出身。市内で鯔屋を営んでいた。





明るく、開放的な「スタジオぶらす石巻」ここではリハビリテーションを中心としたデイサービスをおこなっている。

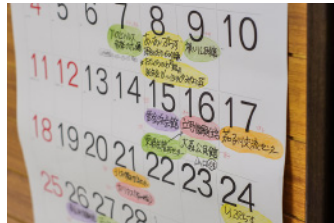
## ② 一般社団法人 りぶらす

〒986-0101 宮城県石巻市相野谷字今泉前 29-3  
電話 0225-98-8957  
<http://rilink.is-mine.net>

活動拠点：石巻市相野谷、登米市迫町佐沼  
社員数： 19名  
創業年： 2013年

## 介護に関わるすべての人を支えるモデルをつくる。

一般社団法人りぶらすは介護離職や介護予備軍など、介護を取り巻く社会的課題に向き合い、支える仕組みをつくっている。



カレンダーには地域の集会所などで開催される健康教室の予定が書かれている。



スタッフと談笑する利用者。1日3回のデイサービスの時間はにぎやかだ。

石巻市相野谷、市内の北側に位置する同地域のまちなかに一般社団法人りぶらすの事業所は位置している。事業所には1日中高齢者たちのにぎやかな笑い声がひびき、わきあいあいと健康を維持するための体操に励んでいる。入浴サービスや食事の提供はないデイケアサービス事業所だが、その丁寧なりハビリテーションや和やかな雰囲気によって遠方から通所する高齢者も多く存在する。

りぶらすのリハビリテーションは要支援や要介護と認定された高齢者が、現状維持に重点を置くのではなく、あくまで改善を目指すことを目標としている。こうしたリハビリテーションの高い知見や技術を活かして生まれたのが「おたからサポーター養成講座」だ。りぶらすスタッフが、地域住民にカラダの仕組みや健康の知識、体操の正しい方法を伝える講習を実施し、修了者には認定証を発行する。その人たちは、おたがい体づくりサポーターとして体操教室の先生となる取り組みだ。体操を通して、人と人がつながる機会を作り、健康づくりとコミュニティ作りを実現していく。年間114回、約1500人が体操教室に参加している。

代表の橋本大吾さんは東日本大震災以前は埼玉で理学療法士として、複数の事業所の立ち上げに関わってきた。震災後の

石巻でボランティアでの支援に関わるうちに、震災によって多くの高齢者の健康状態が悪化し、それまでの生活を取り戻すことなく亡くなることを目の当たりにしてきた。事業として地域に本格的に関わり、多くの人たちを支えることを決意して、2013年に一般社団法人りぶらすを設立し、事業所をオープンさせた。

介護保険を使う前の早期介護に対してサポートも行う。それは介護離職を防ぐには介護が本格的に必要なってからではなく、介護前からの対策が重要だと考えているからだ。そのために始めたのが「訪問健康見守りサービス～想いの架け橋～」事業だ。介護の初期段階では自尊心から介護保険を使いたくないという人や、完全にお世話になるほどでもない健康状態の高齢者も多い。そうした人たちに対して、専門性のあるスタッフが月1回から利用者を訪問し、「健康状況の見守り」や「介護予防のトレーニング」などを行う。そしてその家族にも報告したり、利用者と家族を交えてのコミュニケーションの場をつくったりする、いわば家族とのつなぎ役を担うサービスだ。

近年問題になっている介護と子育てとの両立に向き合うダブルケアや、高齢の祖父母世代のサポートも行う。医療や介護従事者、また家族の介護を経験した経験

専門家の新しい働き方も提唱している。子育てや、家族の介護の経験を仕事につなげる仕組みを作っている。りぶらすが取り組むのは高齢者だけではなく介護による負の連鎖を解決するための、インフラを作ることだ。医療保険や介護保険だけで、これらの問題は解決できないため、様々な人たちをサポートできる可能性を広げる。そのために、医療や介護だけではなく様々な人や団体や機関と連携にも力を入れている。「石巻は若くチャレンジしている人が多い。ひとりでも多くの人が新しいことにチャレンジしてくれば」と代表の橋本さんは話す。



石巻河北地区に位置する「スタジオぶらす石巻」は地域の交流拠点でもある。



代表理事の橋本大吾さんは茨城県出身。震災後仮設住宅の支援に入った。





畳を加工するための機械が並ぶ加工場。

### ③ 株式会社 草新舎

〒986-0323 石巻市桃生町神取字屋敷 69  
電話 0225-76-3062  
www.soushinsha.co.jp

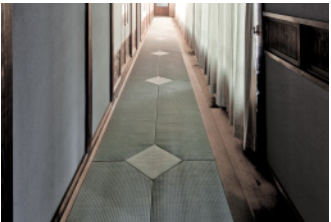
活動拠点：石巻市桃生町神取字屋敷  
社員数： 4 名  
創業年： 1946 年

## 畳づくりの伝統技術を活かし、 職人が活躍する場をつくる。

草新舎は長年培ってきた確かな伝統技術を活かし、新たな発想で革新的な畳づくりに踏み出している。



多角形の変型畳「XT」シリーズは同社独自の技術で製作している。



場所に合わせて最適な畳のかたちや割付を提案している。

石巻市桃生町、田園風景が広がるこの地域のメイン通りに株式会社草新舎は位置する。3名の畳職人をかかえ、畳を加工する工場はもちろん、自社製品を実際に手を触れ体験できるショールームも工場に併設している。ショールームは天然素材の畳を敷き詰めた数寄屋風の住宅で本格的だ。実は宮城県は畳床と呼ばれる畳の芯を構成する稲わらの一大産地でもある。1946年創業の同社は、そんな産地にありながら伝統的な技術で多くの伝統建築の修復に関わりながらも、その確かな技術力で、畳の魅力を高めるような新たな商品を開発している。

創業の経緯は同社代表の高橋寿さんの祖父が縄や土木の代理店などをはじめ、その流れから縄の製造販売をスタートさせた。高度経済成長期に入り畳床の需要が増し、稲わらの豊富な土地であったことから、二代目である高橋さんの父の代から畳の製造事業に業態を変化させていき、高橋さんの代で畳一本に注力するようになった。

豊富な宮城県の稲わらを畳床に活用してつくられる草新舎の畳。寺社仏閣など伝統建築の改修などに重用されているほか、全国の旅館やお茶室、公共施設まで伝統的な製法を用いた天然素材の畳を手がけている。近年になり畳の需要は

減り、宮城県内に120社あった畳の業者が現在は数社になったが、自分でブランドをつくり、自らの手で売る畳の6次産業化を目指し、事業範囲を絞ることで活路を見出してきた。

一方で伝統建築の改修だけでなく確かな技術を活かせる別の道を探ってきた。編み出したのは多角形の畳。伝統的な畳の製法技術を持つ同社だからできる鋭角加工や変形加工を駆使して製作した。ポロノイ図と呼ばれる自然界に存在する幾何学パターンなどを駆使し、自由度が高いデザイン畳をつくることができる「XT」シリーズは同社の新たな商品だ。多角形だからこそ畳の表面が様々な方向の光を反射し、豊かな表情をみせる。畳の斜め縁なし加工は伝統的な製法で培った技術だからこそなし得る革新的な畳作りだ。マンションや賃貸住宅の既存のフローリングに置き畳として活用できるほか、変形した不整形な部屋にも敷き詰めることができる。気に入ったパターンを作成し、世界にひとつしかない畳をつくることも可能だ。職人による手作業で1枚づつ製造され、修理にも対応しているという。

高橋さんは「伝統工業の職人や技術は庇護されるものではなく、積極的に活躍できる場をつくるべきだ」と話す。商品を

きちんとブランディングし、決して安売りはしない。そして畳の魅力を見直し、伝統を伝えることを積極的にしている。幸いにも今の若い人たちは意味のあることにお金を使うようになってきているという。全国各地から注文が来るのはその証拠だ。伝統技術と現代の技術の融合で、新たなマーケットを開拓する。



社屋の横には数寄屋風住宅の本格的なショールームを併設している。



同社社長の高橋寿さんは3代目。幼少期から畳作りに触れてきた。





古民家を改修したCafeはまぐり堂にはゆっくりとした時間が流れる。

4  
一般社団法人 はまのね

〒986-2354 宮城県石巻桃浦字蛤浜 18  
電話 0225-90-2909  
www.hamaguridou.com/

活動拠点：石巻市桃浦字蛤浜  
社員数： 6名  
創業年： 2013年

半島の小さな浜の豊かさを資源に  
なりわい  
生業を生み出す。

2013年に牡鹿半島の小さな浜に誕生した「Cafeはまぐり堂」をきっかけに、「一般社団法人はまのね」は新しい浜の再生モデルを目指している。



Cafeはまぐり堂の人気メニュー「はまぐりセット」。



海に面して建てられた小屋は、マリンスポーツやバーベキューの拠点だ。

石巻市牡鹿半島のつけ根に位置する蛤浜。その高台に建つ築100年近い古民家を改装した「Cafeはまぐり堂」は年間1万人以上が訪れる人気店だ。「一般社団法人はまのね」は、2世帯わずか5名が住むこの小さな漁村集落で、カフェや、海に親しめるマリンアクティビティー、林業、漁業、狩猟の6次産業化など、浜の豊かな暮らしを多くの人に伝えることで浜の再生に取り組んでいる。近隣の浜と連携しながら、牡鹿半島全体の魅力づくりにも積極的に取り組む。

代表の亀山貴一さんは元々市内の水産高校の教師だった。2011年の東日本大震災を経て、生まれ故郷の蛤浜からはひと時は足が遠のいたが、震災で大きなダメージを負い、人口減少が加速化した浜の持続可能な暮らしを模索するために戻ってきた。小さな浜を舞台に始まった再生プロジェクトは、賛同する多くの仲間たちとともに、古民家を改修したカフェのオープンから始まり、手付かずの林業に再び光をあて、キャンプサイトの整備やものづくりなど、豊かな自然資源を活かした多様な事業を展開している。

去年はSUP(サップ)やカヌーといったマリンアクティビティーも本格的にスタートさせた。海に面して建てられたバーベキューが楽しめる小屋は、DIYが

得意なスタッフたちがつくったものだ。獣害が深刻な状況を改善するために、鹿肉や鹿皮を活かした料理や革製品の開発もしている。カフェに隣接するセレクトショップ「高見」では地域の素材を活かしたオリジナルの鹿革製品などを取り扱っている。現在は期間限定でオープンしている。

こうした魅力的な浜の再生は、さらに多くの人たちをひきつけ、新たに石巻に移住してくる若者を増やしている。そして新しく浜に関わる主体が、地域の発見されていない海や山などの資源を活かし、これまでになかった魅力的な事業をつくりあげる。生態系のように人が浜に関わりつづけることで浜の魅力がより磨かれていく。その魅力は、何気なくカフェを訪れる人たちにまで伝播していく。一方で地域との融和への配慮も欠かせない。たくさんの人が浜を訪れるよりも、丁寧に浜のファンを増やすことに注力している。

代表の亀山さんは「人を起点にして地域資源を活用した事業を作り上げ、魅力のある暮らしを創造していく、そうすることで小さな生業を生み出していく人間を増やし、人の循環を生み出したい」と話す。持続可能な浜をつくるには人の関わりが欠かせない。人と自然との適度な

関係性が失われつつある浜の暮らしの再生につながる。

「カフェは経営的にはそれほどお金は儲からないが、人が儲かる」と言う亀山さんの言葉には、自然と人の生態系をつくり、浜の暮らしの持続的な発展を願う思いが込められている。漁業で発展した石巻の沿岸部には多くの浜が点在するが、その多くは変化が求められている。はまのねの取り組みは、浜の未来のひとつのかたちを提示してくれる取り組みでもある。



カフェに隣接するセレクトショップ「高見」では期間限定で企画展示を行う。



代表理事の亀山貴一さんはこの浜の出身。







# 3

## 石巻ローカルベンチャーリサーチ 2018

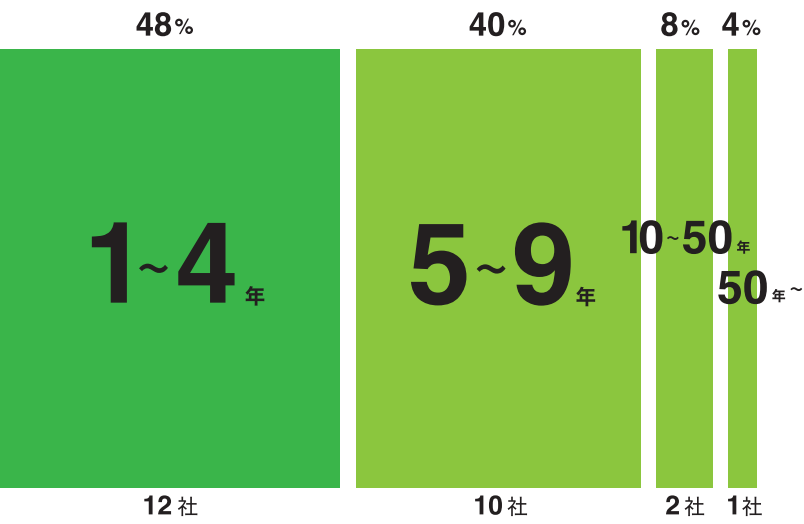
石巻市内のローカルベンチャー事業者25社にヒアリングし、その特徴、創業の背景、傾向をリサーチしました。

### 【ヒアリング対象事業者】

|                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| フィッシャーマンジャパン         | 一般社団法人 ビースポートセンターいしのまき |
| 今野梱包 株式会社            | 株式会社 石巻工房              |
| 桃浦ビレッジ               | 一般社団法人 日本カーシェアリング協会    |
| NPO法人 プレアツーツリズム      | 一般社団法人 石巻・川の上プロジェクト    |
| 公益社団法人MORIUMIUS      | NPO法人 TEDIC            |
| 株式会社 草新舎             | クマガイサイクル               |
| 一般社団法人 イシノマキ・ファーム    | 一般社団法人 はまのね            |
| NPO法人 かぎかつこPROJECT   | 一般社団法人 りぶらす            |
| 一般社団法人 おしかリンク        | 合同会社 デザインナギ            |
| Tree Tree Ishinomaki | 愛さんさん宅食 株式会社           |
| ぐるぐる応援団              | 株式会社 田伝むし              |
| 石巻ウェディング             | 石巻うまいもの 株式会社           |
| オーダーメイド保育 やっほー       |                        |

## 石巻のローカルベンチャーとは？

### 創業年数はどれくらい？



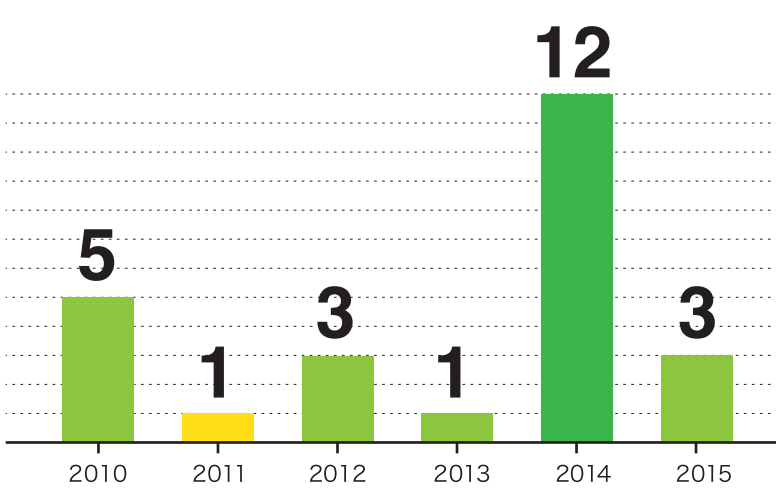
### 東日本大震災を契機に生まれた石巻のローカルベンチャー

リサーチの結果、石巻のローカルベンチャーは創業から1~4年経過した事業者の割合が約半数を占めることがわかりました。次に多い5~9年は40%で、1~4年と合わせると88%に達します。10年以上経過した事業者も数社ありましたが、ほとんどが創業から10年未満の事業者です。石巻のローカルベンチャーは、2011年の東日本大震災以降に生まれた事業者が主体となって活動していると言えます。

### いつ創業したの？

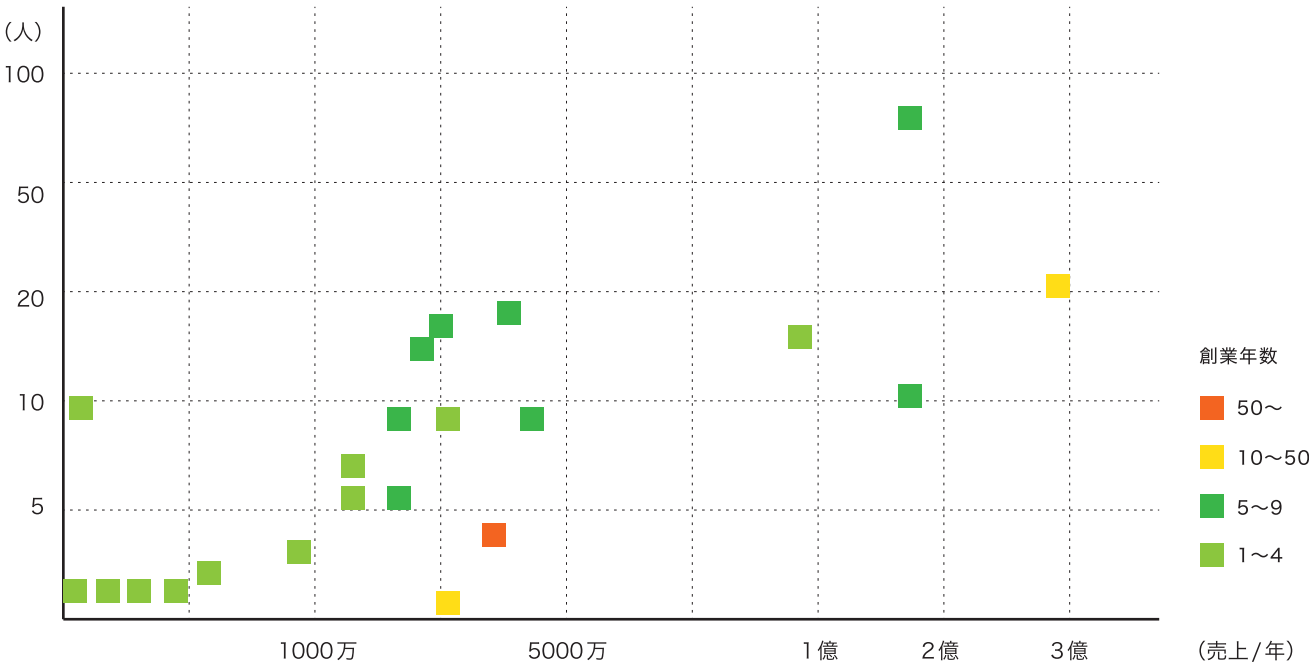
#### 震災3年後、創業はピークに

2010年は5件に対し、震災の年である2011年は1件です。その後の推移が興味深く、2012年に3件、2013年に1件の後に2014年が12件と爆発的に増え、2015年は3件と落ち着きます。震災をきっかけに石巻のローカルベンチャーが活性化された事は言うまでもありませんが、そのタイミングが直後ではなくある程度落ち着いた3年後という点は特徴的な傾向だと言えます。





# 規模はどのくらい？

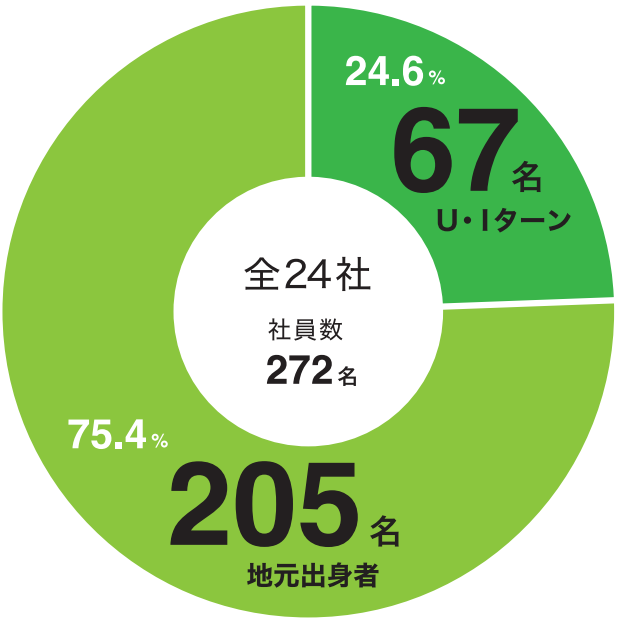


ローカルベンチャーは比較的規模が小さいですが、売上1億円を超える企業は地域を越えて全国的にも知名度が高い傾向があります。

## 売上規模5,000万円未満の小規模事業者が多い

リサーチした企業の88%が創業10年未満という事もあり、売上規模が5,000万円未満の小規模事業者が多数ですが、なかには1億円を超える事業者も存在します。またちょうど1,000万円のラインを超えた段階で組織が成長し、雇用の増加が活発になる傾向があり、さらに5,000万円を超えると一気に1億円まで加速する様子がグラフから読み取ることができます。

# U・Iターンの割合は？



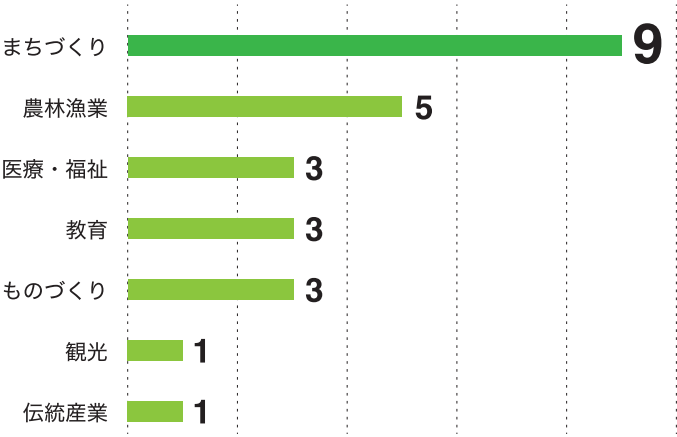
## U・Iターンも一丸となって取り組む

全体の雇用数が272名、その内24.6%にあたる67名がUターンもしくはIターンです。石巻のローカルベンチャーは約4人に1人がU・Iターンの人材を活用しており、地元の人材とともに一丸となって取り組んでいる事が伺えます。

# どんな分野が多いの？

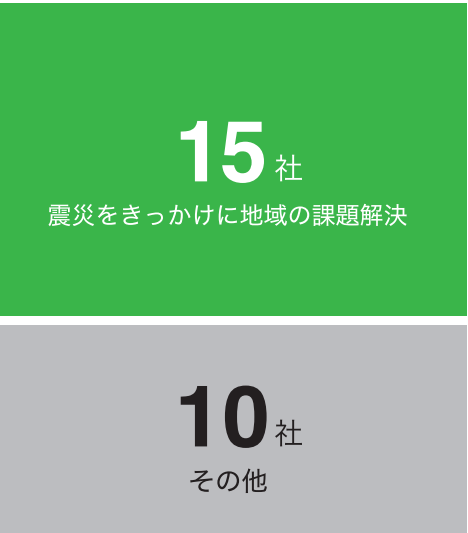
## 多様なまちづくり

石巻のローカルベンチャーは多様な分野に進出していますが、その中で最も多く分類されたのがまちづくりです。ここではまちづくりは異分野の複数の事業をおこなう事業者と定義しています。その次に農林漁業が続きます。創業年でわかる通り、石巻のローカルベンチャーは震災の影響を強く受けており、分野も関係する傾向があります。その中でもまちづくりと農林漁業は代表格といえる存在です。





# 石巻ローカルベンチャーは誰がはじめたの？



## 事業立ち上げのきっかけは？

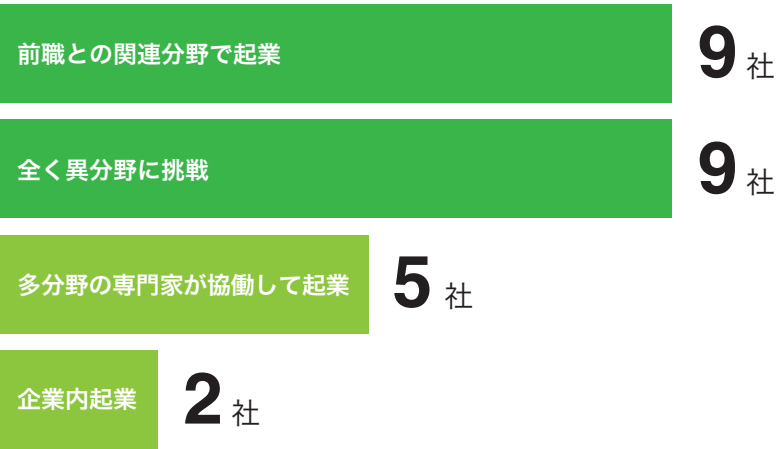
震災をきっかけに地域に移り住み、支援活動や地域社会の人との交流を経て地域課題に接し、事業を立ち上げるケースが多く見受けられます。また企業内の世代交代により企業内課題から新規事業につながるケースもありました。

- それまでの経験を活かし起業 3
- 世代交代により企業内課題に気づいた 2
- 同業者が協働し起業 2
- 震災前より構想があり実現 1
- 他事業を通じて課題に気付いた 1
- 事業を発展させるために起業 1

## どんな人が起業しているの？

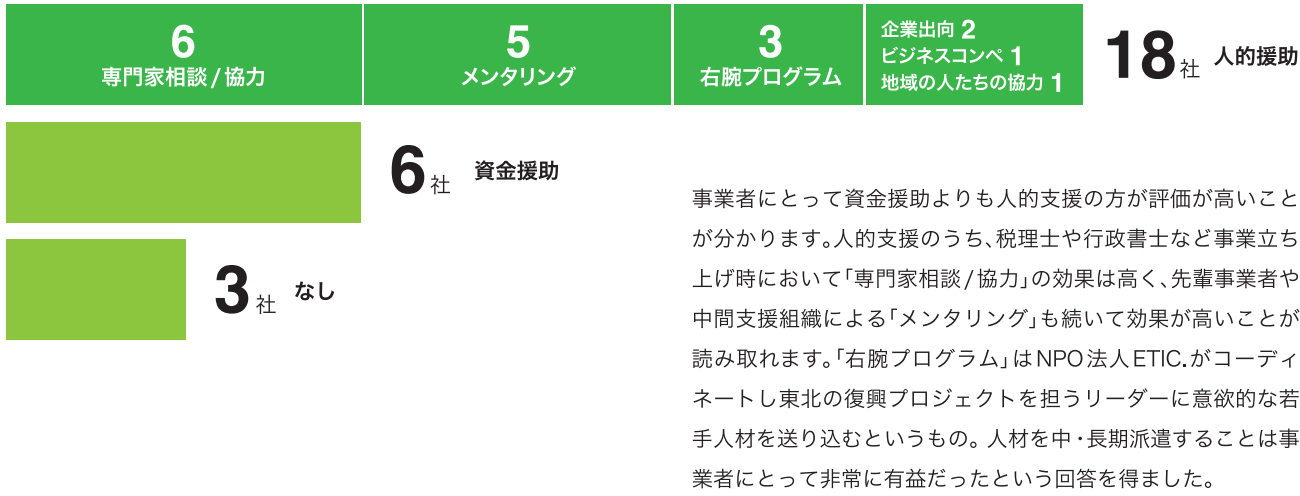
### 異分野に挑戦

グラフのとおり石巻のローカルベンチャーは「前職関連起業」と「異分野挑戦」の2つに分かれています。前職関連起業はローカルベンチャー特集に登場したりぶらすの橋本大吾さん(→P09)、異分野挑戦は同じく特集ページに登場した石巻工房の千葉隆博さん(→P07)や、はまのねの亀山貴一さん(→P13)が該当します。



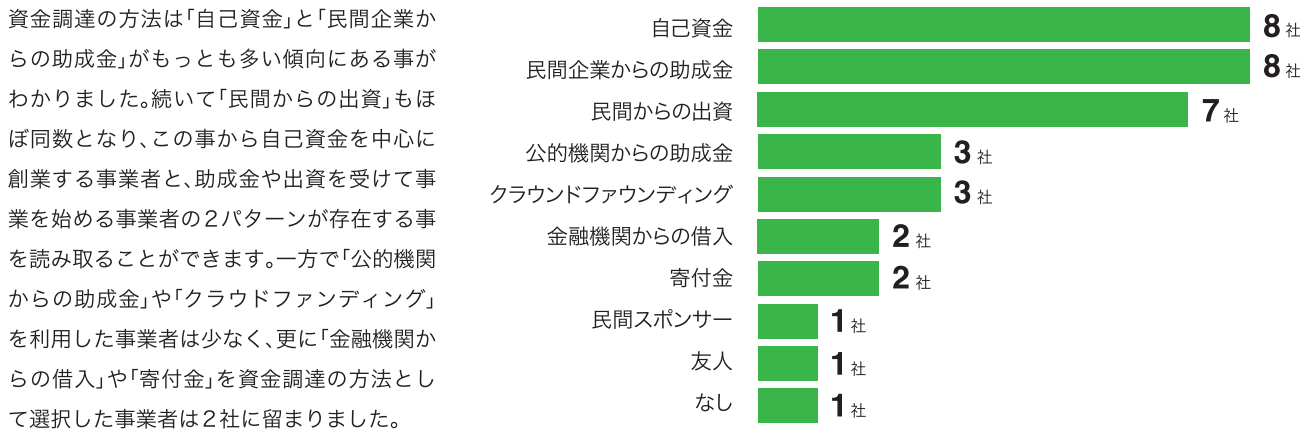
# どうやってはじめたの？

## 事業立ち上げ時に何が役に立ったか？



事業者にとって資金援助よりも人的支援の方が評価が高いことが分かります。人的支援のうち、税理士や行政書士など事業立ち上げ時において「専門家相談/協力」の効果は高く、先輩事業者や中間支援組織による「メンタリング」も続いて効果が高いことが読み取れます。「右腕プログラム」はNPO法人ETIC.がコーディネートし東北の復興プロジェクトを担うリーダーに意欲的な若手人材を送り込むというもの。人材を中・長期派遣することは事業者にとって非常に有益だったという回答を得ました。

## 事業立ち上げ時にどうやって資金調達をしたか？





# 石巻は挑戦しやすいまち？

はい  
18社

- 一次産業から六次産業まで網羅している
- ひとと来やすい
- 排他的な人が今は排除されていっている
- モデルとなる事業者がいる
- 発展途上の産業も多い
- 新しい取り組みに地元の人が寛容
- 競合が少ない
- 被災地なので非営利活動のサポートが手厚い
- 未開拓の分野多く、スキマが多い



地元出身者やU・Iターンの事業者を含め大多数の事業者は石巻が起業しやすい土地だと考えています。その理由として、起業者間の横のつながりが生まれやすいことや、中間支援のしくみやサポートなどが充実していることなどがあります。主に東日本大震災後に新たに生まれた状況が起業を後押しする動きとなっています。一方で未開拓な分野が多い事や、一次産業から六次産業まで幅広い産業があるなど、東日本大震災がおこる以前から石巻が元来もつ特長に可能性を見出す事業者もいました。

どちらとも  
いえない  
4社

いいえ  
3社

- 農村はとくに応援の風潮がない
- 企業が1社1社独立しており、距離がある



石巻は起業しづらいと答えた事業者は全体の2割に満たないほど少数でした。起業しづらい理由としては、閉塞的な気質や応援されづらいという感覚を指摘する声がありました。こうした声は長年石巻に在住している地元出身の事業者に顕著にみられる傾向がありました。

# 事業は順調に行っていると感じているか？

はい  
14社

- 事業収益で持続可能になっている
- 地域との協調がうまくいっている
- 事業成果が見えてきてやるべきことがわかってきた
- 人材が育ってきた
- 売上が上がった
- 人がお店に集まるようになった



現在の事業が順調にいと回答する事業者が6割に及びました。順調に行っているかそうでないかの判断は、主に現在の事業モデルが持続可能なモデルになっているかどうかで判断されることが多いようです。人材が育ち、顧客が安定し、事業の収益が上がっている事業者はおおむね事業が順調にいと感じているようです。また地域との交流に重きを置く事業者もいました。

どちらとも  
いえない  
5社

いいえ  
6社

- 事業収益上うまくいっていない
- ボランティアや助成に頼っている



現在の事業がうまくいっていないと回答したのは2割ほどです。事業が順調ではないと感じる主な理由としては、事業が収益構造上うまく行っていない場合や、助成やボランティアに多くを依存している場合があげられました。

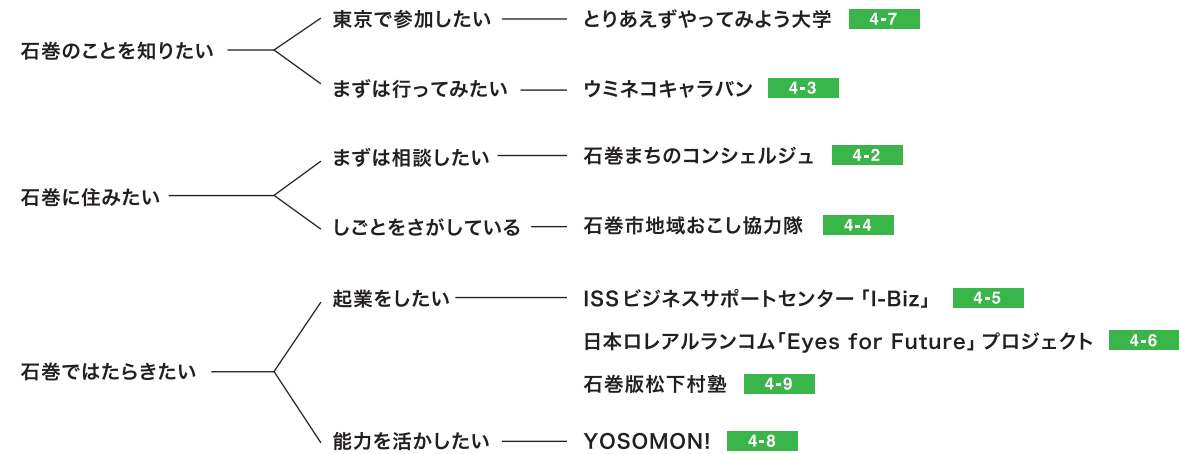






# 4

## サポートプログラム



### 4-1

#### コンソーシアム ハグクミ

ISHINOMAKI2.0、イトナブ、巻組、石巻観光協会の4社によるコンソーシアム。移住・定住の促進、ローカルベンチャーの推進、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。国内10自治体が参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務める。

#### 問い合わせ

コンソーシアム ハグクミ (一般社団法人 ISHINOMAKI2.0)  
電話 0225-90-4982



### 4-2

#### 石巻まちのコンシェルジュ

2016年度よりスタートした移住者の暮らしや住まい、仕事に関するサポートを担う窓口。創業のサポートや事業用物件の案内もおこなう。「つなげる」をキーワードに石巻の魅力や情報を相談者に届ける。石巻市委託事業。

#### 問い合わせ

コンソーシアム ハグクミ (一般社団法人 ISHINOMAKI2.0)  
電話 0225-90-4982



### 4-3

#### ウミネコキャラバン

石巻まちのコンシェルジュがコーディネートするオリジナルツアー。石巻の魅力的な企業への訪問や、すでに起業した方や先輩移住者への訪問もおこなう。中長期間石巻に滞在したい人向けのお試し移住や、まち歩きもおこなう。年4回程度開催。

#### 問い合わせ

コンソーシアム ハグクミ (一般社団法人 ISHINOMAKI2.0)  
電話 0225-90-4982





4-4

石巻市地域おこし協力隊

地域振興や地域活性化等に資する市外の人材を積極的に受け入れながら、石巻への定住・定着を図るための起業型人材の募集。6次産業や福祉、医療などの生活支援に関する事業者もしくは中山間地域からの事業者を受け入れ先として募り、活動に従事する。

問い合わせ

石巻市復興政策部地域振興課交流グループ  
電話 0225-95-1111



4-5

ISSビジネスサポートセンター「I-Biz」

創業を目指している方から経営改善・経営拡大などを考えている経営者まで、「どの様に課題を解決したら良いのか?」、「どこに相談したら良いのか?」、悩んでいる経営者の相談に対応する石巻地域の無料経営総合相談窓口。創業を目指している方や次世代を担っていく経営者を対象としたセミナー等も開催。

問い合わせ

ISS ビジネスサポートセンター「I-Biz」  
電話 0225-98-8782  
<http://www.iss-net.jp/index.html>



4-6

日本ロレアルランコム「Eyes for Future」プロジェクト

女性の自立・起業支援プログラム。特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワークと化粧品ブランドのランコム、石巻市による女性の自立を応援するスクール。起業家を目指すほか、ビジネスの拡大を目指す女性を対象。プログラム受講者の多くは修了後にビジネスを新たに立ち上げている。

問い合わせ

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク(やっべす)  
電話 0225-23-8588  
<https://eyesforfuture-yappesu.jimdo.com/>



4-7

とりあえずやってみよう大学  
University of "Don't Think, Feel"

復興の過程で、かつてない新たな活動をはじめた人たちが石巻にはたくさん現れた。多くのものを失った街だからこそ、過去の価値基準にしばられず、思いついたことを「とりあえずやってみよう」という機運が生まれた。「とりあえずやってみよう大学」は、この「とりあえずやってみよう」精神を、建学の志とする市民大学。石巻のユニークな起業家たちが講師となって、東京で講座を開講。

問い合わせ

コンソーシアムハグクミ(合同会社巻組) 電話 0225-24-6919 <http://ishinomaki-iju.com/udtf/>



4-8

YOSOMON!

ローカル企業の経営革新にあなたのチカラを活かしませんか? 日本全国から厳選した中小企業の経営革新プロジェクトに、経営幹部として挑む機会を紹介。定住を強制しない新しい働き方も可能。石巻のチャレンジングな企業も多数紹介。

問い合わせ

NPO 法人ETIC. / YOSOMON! 事務局  
電話 03-5784-2115 <https://yosomon.jp/>



4-9

石巻版松下村塾

石巻市でチャレンジをしかける起業家を輩出するために、石巻市とコンソーシアム ハグクミがタッグを組んで仕掛ける事業ブラッシュアッププログラムです。事業の立ち上げに必要なブランドイメージづくりのノウハウや、資金繰りに必要な事業計画書の作成方法等、講師による基礎的な知識のレクチャーと併せて、じっくりと個別相談を設けます。また、コーディネーターが事業の立ち上げに伴走して支援を行います。

問い合わせ

コンソーシアム ハグクミ(合同会社巻組) 電話 0225-24-6919





# 石巻ローカルベンチャー白書2018

2018年3月31日 第1刷

## 編集

勝 邦義（一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0）

## デザイン

遠藤 和紀（合同会社 デザインナギ）

## 撮影

古里 裕美

渡邊 樹恵子（合同会社 デザインナギ）

遠藤 和紀（合同会社 デザインナギ）

安達 日向子

## リサーチ

合同会社 巻組

一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0

石川 孔明

## 協力

NPO法人 ETIC.

## 発行

コンソーシアム ハグクミ

平成29年石巻市地域活躍支援推進事業

## 連絡先

一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0

〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2

電話 0225-90-4982 fax.0225-90-4983

<http://ishinomaki-iju.com/>

[navi@ishinomaki2.com](mailto:navi@ishinomaki2.com)

## 取り扱いについて

本書の内容の一部あるいは全部を無断転載・複製・複写・インターネット上へ掲載することは、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、ハグクミまでお知らせください。